

西教寺

西教寺は、真盛（1443-1495）という仏教の僧とは切っても切れない関係にある寺です。真盛は、西教寺を不断念仏を唱える場所にしました。不断念仏とは、阿弥陀仏の名前を唱え続けて鐘を鳴らすという修行です。西教寺の僧たちは、今でも本堂で不断念仏を唱えています。ただし現在では、夜間も行われていません。現在の本堂は 1739 年に遡るもので、釘を一切使わずに全てケヤキで作られています。重要文化財に指定されています。

こちらも重要文化財に指定されている客殿は、京都の伏見城から移されたものです。客殿には 5 つの部屋があり、それぞれの部屋の襖と壁には異なる絵が描かれています。制作したのは有名な狩野派の絵師たちです。狩野派を代表する絵師である狩野永徳（1543-1590）が描いた可能性もあります。客殿の庭園は、周囲の地形をモデルにした設計になっています。琵琶湖の形をした池があり、その周囲の地面は琵琶湖の南岸地域、現在の滋賀県を表しています。